



十八年ぶりに
帰った息子に、
後悔はない。

火の国 阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

小学生のときから馬術に親しんでいた蔵原政和さんは、
四国徳島の高校に進学し、国体の選手となる。
大学は東京、就職も東京。

つまり少年のときに阿蘇を出て、ずっと帰らなかった。

実家は町の薬屋さん、製薬会社に就職したのもその関わりだが、
やがて転職し、千葉県で牧場（競走馬と乗馬）を経営する。

実家は大型ドラッグストアの進出に押され、父は撤退も考えたが、

「地域のお年寄りが困るだろうから、小規模でつづけました」

そして、ずっと趣味でつづけていた

ハム・ソーセージづくりを本格的に始めた。

薬屋さんの売るハム・ソーセージは絶品、と好評を博す。

十八年ぶりに息子は帰った。

牧場の経営は順調だったが、後悔はなかった。

「父がずっと追いつづけている『食の安心・安全』の姿勢に……」

強く共感している、と元・製薬会社社員は思慮深く言う。

阿蘇クララファーム 蔵原政和

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。